

K.A.D.P.K. コディピリ (スリランカ)



私は、スリランカ国家災害管理局（DMC）の課長補佐のコディピリと申します。

まず初めに、このような機会を与えてくれた ADRC、マヒンダ・サマラシンハ防災人権省大臣、ラジーワ・フィジェシンハ防災人権省長官、ガミニ・ヘチアラッチ DMC 局長に感謝申し上げます。

スリランカは約 6 万 5 千キロ平方メートルの島国で、熱帯気候であり、洪水、地すべり、干ばつ、サイクロン、津波などが多い国です。スリランカは 2004 年 12 月 26 日のインド洋大津波災害により、東西南北にある沿岸地帯は破滅的な被害を受けました。この未曾有の津波により 3 分の 2 のスリランカの沿岸地帯が壊滅されました。この沿岸地帯の 13 地区で 3 万 5 千名以上が亡くなり、10 万棟もの家屋が破壊され、5 千名が行方不明となりました。

スリランカ政府は 2005 年に防災法第 13 号を成立させ、その法に従い、国家防災協議会（NCDM）が設立されました。また同時に、DMC は NCDM の下にある防災施策を先導する実施機関として設立されました。防災省は 2005 年 12 月に設立されました。

上述の防災機関は積極的に災害リスクの軽減に取り組んでいます。この ADRC 客員研究員プログラムは更に防災知識を蓄えるための素晴らしい機会です。私はこのプログラムを通じて津波防災や日本の防災システム、早期警報のメカニズム、学校防災計画、防災訓練やタウンウォッチングなどの活動などについて学びたいと思っています。また、データ分析システムについて研究したり、様々な防災活動に参加したり、防災関連機関を訪問したいと思っています。

また、私は 2004 年 12 月 26 日の津波被災者でもあり、大変に困難な時期を経験しました。DMC での勤務を通して、スリランカが全ての災害に十分な備えができよう貢献していきたいです。ADRC で得られる知識は、母国で安全なコミュニティを作り上げる一助となると思います。最後にこのような機会を与えてくださった皆様方に感謝申し上げます。